

ふるさとの歴史を訪ねる旅へ

鷹栖町文化財マップ

<p>①湯本遺跡 【所在:9線西2号】 明治後期の開拓当初に黒曜石の石器類が出土。嵐山2遺跡から旧石器時代の石斧などが発見されており、同世代のものと考えられる。</p>	<p>⑧朝鮮赤松 【所在:13線4号】 楠本友吉が明治38年、日露戦争に出征し、中国大陸に自生していた赤松を持ち帰り庭に植えた。以来100余年、当時を物語っている。</p>	<p>⑮①中山照重歌碑 【所在:南1条3丁目】 中山照重は、明治27年に入植。大正6年に村長となりオサラッペ川の治水に大きく貢献。自宅にあった句歌碑が昭和55年に移設された。</p>	<p>③酒井広治歌碑 【所在:嵐山展望台頂上】 酒井広治は明治27年生まれ。旭川中学校を卒業。北原白秋に師事し、新聞歌壇選者として活躍した。</p>
<p>②報恩の碑 【所在:19線16号】 冷害凶作の中でも稀有といわれた大正2年。農場の管理人・高井興一が食糧の救援と種籾の確保に奔走。その恩義を後世に伝える記念碑。</p>	<p>⑨砂金採取跡 【所在:24線18号】 北星川上流に砂金が出るということが判ったのは、大正の初めころ。山師な男たちが集まってきて、川底を掘り進め一攫千金を狙っていた。</p>	<p>⑯柏台の檜 【所在:17線12号】 旧鷹栖中央小学校の校庭には、檜の大樹が数多く存在し、子どもたちを見守っていた。今ではかつての面影を残す2本のみ。</p>	<p>④中山勝歌碑 【所在:南1条3丁目】 中山勝は明治39年鷹栖村生まれ。旭川商業高校教諭を勤め、歌誌「かぎろひ」を創刊し、かぎろひ誌社を主宰するなど多くの歌集を残した。</p>
<p>③みかえりの柏 【所在:22線13号】 丸山自然道路の真ん中にそびえ立つ柏の大木。部落から町への出入りの目安であり、凶作でこの地を離れる人々を見送り続けた。</p>	<p>⑩祖神の松 【所在:21線9号】 明治34年以降、この地域を開拓した川崎奈良之助が、農場事務所の庭を飾るものとして残したとされている。樹齢推定600年。</p>	<p>⑰ヨーロッパクロマツ並木 【所在:12線3号】 明治30年、政府が全国の小学校に樹木苗を無償配布。当時は200本超の樹木が植えられたが、今ではヨーロッパクロマツのみが残る。</p>	<p>⑤谷口千賀夫歌碑 【所在:14線16号】 谷口千賀夫は明治45年鷹栖村生まれ。青年期より文学に長じ、「藤野農場」「かんがい溝」など開拓時代の暮らしや人情を記した。</p>
<p>④開拓記念之碑(知遠別) 【所在:15線23号】 明治28年に滋賀団体が比布から入植。苦難を乗り越え、団結をもって栄えた喜びの意を込め、入植後30年を記念した昭和9年に建立。</p>	<p>⑪北斗石碑群 【所在:12線16号】 北斗神社の境内に、檜の疎林があり「北斗檜群落」として史料に指定。檜の本数減少のため、歴史的価値のある石碑群に変更された。</p>	<p>⑱近文簡易教育所跡 【所在:17線13号】 静福寺開基坊守の佐々木ひわが、明治33年、入植者の強い要望で拝み小屋を建て、子弟の教育にあたった。後の鷹栖中央小学校。</p>	<p>⑥中山静山文学碑 【所在:南1条3丁目】 中山照重の俳号。歌碑とともに建立された文学碑には、照重の功績が記されている。</p>
<p>⑤水田発祥の地 【所在:10線1号】 明治26年に岩手県人たちが鷹栖村に入植。この一員であった山崎千松が、沢水を利用して水田をつくったのが始まりと言われている。</p>	<p>⑫教育発祥の地 【所在:13線10号】 明治29年、鷹栖村における教育の創始者・静福寺開基坊守の佐々木ひわが、お寺の前に拝み小屋を建て、寺子屋式教育を始めた。</p>	<p>⑲寺子屋教育所跡 【所在:15線23号】 明治38年滋賀団体が比布から入植。打本敬信が駐在となり、子弟を集めて寺子屋式の簡易教育所を開いた。</p>	<p>⑦丸山句碑の森 【所在:21線13号】 昭和57年、緑と文学の調和した憩いの場として造成。集会施設「玄穹庵」も建築され、昭和60年に100句碑を達成。著名俳人の碑も並ぶ。</p>
<p>⑥拓殖之祖碑 【所在:14線8号】 大正4年、この地帯に入植した山梨県団体移民の人たちが建立。以前は先祖を祭る神社もあったが、鷹栖八幡神社に合祀され碑が残った。</p>	<p>⑬中山家庭園 【所在:13線8号】 オサラッペ川改修の折、古川を利用して大正12年に作られた庭園。昭和45年の圃場整備事業により、中山家庭園のみが残った。</p>	<p>⑳近文第10小学校跡 【所在:15線23号】 ⑲の寺子屋の児童数増加に伴い、同9年に近文第十尋常小学校として開校。同13年に知遠別小学校と改称された。昭和36年閉校。</p>	<p>⑧塩野谷秋風句碑 【所在:14線3号】 塩野谷秋風は明治42年旭川市生まれ。排紙「樹氷」を創刊するなど、地方に多くの俳句人を育てた。北野神社境内に碑が建立されている。</p>
<p>⑦知別貯水池 【所在:15線23号】 昭和元年に地元住民らによって申請がされ、同3年に認可を受け作られた貯水池。この地域の稲作発展に欠かせない水源であった。</p>	<p>⑭旧弯管渠の跡 【所在:15線17号】 大正前期、石狩川から取水する大規模用水路工事が行われ、6年以上の歳月をかけ完成。開拓の歴史そのものといえる弯管跡である。</p>	<p>㉑池田勝亮歌碑 【所在:14線3号】 池田勝亮は大正3年生まれ。北野尋常高等小学校卒業。農村文化誌「新郷土」を創刊。上川各地の農村青年に自信と啓発を与えた。</p>	<p>マップの番号と説明表の番号が一致していません。鷹栖ののどかな自然の風景を楽しみながら、町内を巡ってみてはいかがでしょうか。</p>

鷹栖町指定文化財第1号

「北野神社獅子舞」



由来は、旧金沢五社の筆頭たる御神格の金沢椿原天満宮の獅子舞が、江戸末期から明治初期にかけて加賀藩内に伝わったもので、そのうち富山県砺波郡旧東野尻村苗加に伝わるものが伝承された。この村の神明社に雄雌2頭の獅子があり、北海道に移住した川辺源三郎が雄獅子を譲りうけたものとされている。

獅子舞の構成は、獅子頭に1人、胴体に5人が入り、獅子とりの少年は1人で棒、なぎなた、草刈がまが持ち物である。笛や太鼓の囃子に合わせての踊りは勇壮で男性的である。

昭和53年12月12日に鷹栖町文化財の第1号に指定。毎年8月4日の北野神社例大祭において、力強い演舞を披露。歴史ある舞を受け継いでいる。

鷹栖町指定文化財第2号「治水の碑」

オサラッペ川は、ハイシュベツ川、ヨンカシュッペ川、イブンベウシ川、シュマム川、その他の支流を合流して鷹栖町の中央を貫流して石狩川に注ぐ母なる川とも言えよう。

開拓の初期、屈曲した乱流は、降雨、融雪期にはしばしば氾濫し、流域の田畑を侵し、人畜財資に大きな被害を与えていた。大正8年、オサラッペ川沿岸住民が中心となって鷹栖土功組合が設立され、民間団体による河川改修が起工。6年3カ月にわたる難工事のすえに河川の改修を終え、その記念として建立されたのが「治水の碑」である。昭和2年6月に建立され、昭和59年8月に鷹栖町指定文化財第2号として指定された。

